

がん教育推進自治体視察レポート

高等学校における予防・治療・支援の観点からがんを学び・伝え合う授業

1. 概要

場所	山梨県立塩山高等学校 体育館
日時	令和7年11月11日（火）14:30～15:20 <6時間目>
対象学年・人数	高校1年生52名（普通科・商業科）
教科・単元名	保健（1）現代社会と健康（ウ）生活習慣病などの予防と回復
授業者	前田 崇将 教諭
外部講師	山梨県富士吉田市立病院 がん看護専門看護師 小池 賀津江 氏
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が「予防・治療・支援」の3つのテーマから自分の関心のある内容を選び、主体的に調べ学習へ取り組める構成 ・学習のまとめとしてICTを活用してポスターを作成し、互いに学んだことを伝え合うポスターセッションを実施 以上が他自治体の参考となると考えたため。

2. 授業内容

<授業のねらい>

最も学びを深めたいと思ったがんの内容について、選択した理由と自他や社会の課題の解決方法などを話し合い、校内掲示用ポスターを作成し、筋道を立ててポスターセッションで説明することができるようとする。

<授業の流れ>（がん教育授業 第4回目）

導入（約5分）	前田教諭による、目標の確認と前回の授業の振り返り
グループワーク (約40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループが設定したテーマ、前回までの学習を振り返り、調べたことを共有 ・ポスター作成に向けた情報収集 ・ポスター作成について説明 ・Canva（キャンバ）を使ったポスター作成（各グループで1枚作成） ・各グループで外部講師に対する質疑応答 ・ポスター作成の進捗共有・中間発表  
まとめ (約5分)	小池氏による講評 生徒は授業の振り返りを行い、Teamsにて感想等を提出

<グループ活動の内容、ICTの活用状況等>

オンラインラフィックデザインツール Canva（キャンバ）を用い、テンプレートを効果的に活用してポスターを作成した。選んだテーマについて生徒一人一人がパソコンを用いて情報収集を行い、グループ間で同時編集を行う等、協力しながら効率的に取り組む様子が見られた。

生徒一人一人が Teams を用いて感想を提出する振り返り手法は、発表が苦手な生徒でも自分の考えを表現しやすい手法と見受けられた。また、情報収集の際には、情報リテラシーに配慮し、正しい情報を確認するよう教諭より適宜、声かけが行われていた。

<がん教育全5回授業の詳細>

① 第1回目 題材：原因と予防／講義型

がん教育アニメ教材「よくわかる！がんの授業」を基にクイズを交え、進行。がんの種類や原因を理解し、予防のための基本的な生活習慣や検診の重要性について考えた。

② 第2回目 題材：がんの治療と回復／講義型

がん教育アニメ教材「よくわかる！がんの授業」を基にクイズを交え、進行。がんの治療法や緩和ケア、またがんと共生していくための取組や支援について学んだ。

③ 第3回目 題材：探究活動I／外部講師参加のワーク

生徒は、がんに関する3つのテーマ（治療・予防・支援）の中から興味をもったテーマをひとつ選び、調べることで理解を深めた。疑問等があれば外部講師に質問し、さらに理解を深めることができた。

④ 本時・第4回目 題材：探究活動II／外部講師参加のワーク

『導入』前田教諭による、目標の確認と前回の授業の振り返り
本時の目標として、最終成果物であるポスター作成に触れながら、以下の2点を確認した。

- 各グループが選択したテーマについて理解を深め、他者に伝えたい内容を整理すること。
- 情報リテラシーを意識し、正確で信頼できる情報を収集すること。



前回の授業後の生徒の感想やもっと知りたいこと・深めたいこと・調べ学習をしていく中で新たに生じた疑問から、学びの振り返りを行った。

<本時(第4回目)・外部講師活用授業の詳細>

・事前授業の生徒の感想

- 手術と化学療法と放射線治療のことはあまり知らなかった。調べたことを親や親戚に教えてあげたいと思った。
- 支援を詳しく調べたところ、教科書には載っていなかったリハビリ師なども関わっていることが分かった。

・もっと知りたいこと・深めたいこと・調べ学習をしていく中で新たに生じた疑問

- ・子宮体がんとは、子宮体がん・子宮頸がんの違いについて
- ・ドラッグラグとは？

・グループワークの発問を通してテーマを振り返り、ポスター作成のための情報収集

- ・発問1 「自分たちの設定したテーマとその理由を確認しよう。」
- ・発問2 「これまでの疑問を外部講師と共有し、理解を深めよう。」
 - ↳前回までの学習の振り返りと調べたことのグループ内共有
新たな疑問についても調べ、外部講師に聞きたいことをまとめよう。
- ・発問3 「これまでの学習を通して、得た知識を広く知ってもらう
ためにはどのように発信すれば良いか考えよう。」
 - ↳Canva（キャンバ）を活用し、ポスター作成を実施した。
 - ↳必要に応じて短時間で調べ、分からぬことや疑問点は積極的に外部講師に質問した。



・各グループで外部講師に対する質疑応答

外部講師が机間巡回を行い、グループごとに生徒からの質問に答える、ポスター作成のアドバイスを行う等サポートをした。



【生徒からの質問と外部講師の回答】

生徒からの質問	外部講師の回答
支援をテーマにポスター作成をしている。ソーシャルワーカーや臨床心理士と関わることはあるのか。	看護師の知識とソーシャルワーカー等他の職種の知識を合わせて、患者の生活面のアドバイスや患者の家族のことを考慮しながら治療が進められている。提示された中で治療法を決めるのは患者やその家族。がん治療を支える職種の役割は、その決定をサポートすることである。
がんの告知を受けた患者の気持ちに寄り添える支援とはなにか。自分たちには何ができるか調べるポイントは。	がんの告知を受けた患者の心のケアという視点で調べると良い。乗り越えた期間、乗り越えるためにどんな支援があるかを調べていくとより深く学んでいくことができる。
日本人のがん検診の受診率の低さを調べている。分かったところもあるが、分からぬところもありどうポスターに落とし込めばいいのか。	調べたこと・分かったことをまとめつつ、分からぬことはみんなでこれからも調べていきたい等、最後を締めくくるようにしてはどうか。

・ポスター作成の進捗共有・中間発表

調べているテーマと、ポスターとしてまとめている内容やさらに学んだことの中間発表を実施

テーマ	調べていること・学んだ内容
支援：心のケア	がんになったときの対処法や周りの人に相談することが大切であることを伝えたい。



外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 視察報告

予防：どんな食生活をすると健康に過ごせるか	画像を付けつつ、食事の楽しさを伝えるためにまとめている。
治療：がんの種類による治療法について	治療法や発生場所をまとめて、ポスターを作成する。



・外部講師小池氏による講評

治療：手術、化学療法、放射線治療の3本柱を押さえてもらっていると思う。

治療時の辛い症状について考えているグループもある。

辛い症状をどう乗り越えていくかまでつなげて考えるとまとめの部分で活きてくる。ただ調べただけでなく、それをどう活かすか考えてほしい。



予防：食生活など取り上げてくれていた。予防はとても大事。

ワクチンについて調べているグループがあった。がんの

予防として、子宮頸がんのワクチンがあるようにがん予防のためのワクチン接種についてさらに調べてみてほしい。

支援：がんと言われたときにどんな心境か、自分一人では乗り越えていけない等、心の辛さがある。心の問題をどう支援するかということを取り上げ、丁寧にまとめたグループがあった。ぜひ他の皆さんにも広めてほしい。

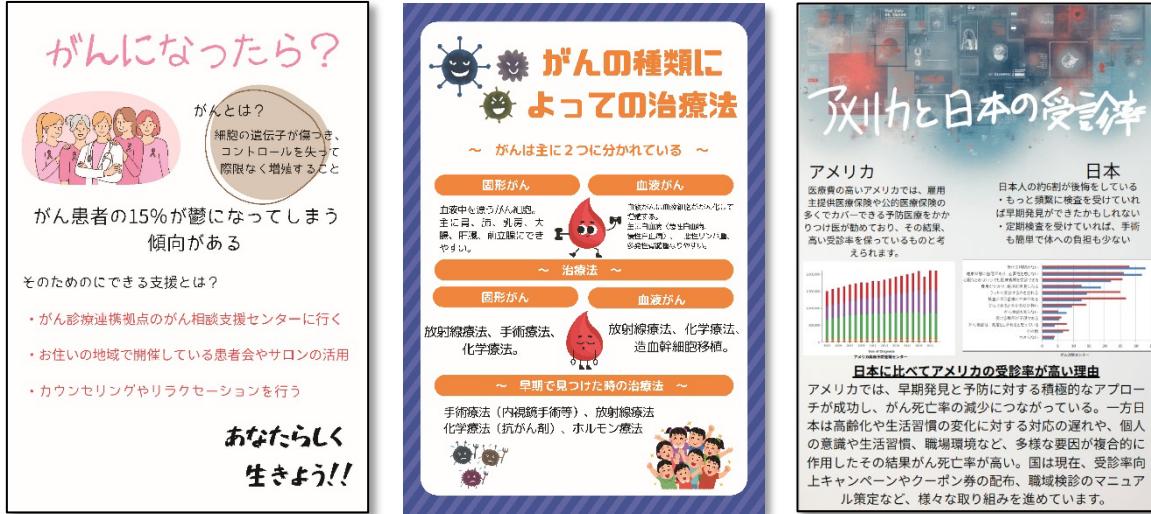
・授業の振り返り（抜粋）

生徒はそれぞれで振り返りを行い、Teamsにて感想・まとめ、次回の計画を提出した。

感想・まとめ
ポスターを作ることで、がんについて知ることができた。もっと他者に分かりやすいポスターを作れるようにする。
今回は様々な先生方と勉強することができた。次の授業ではポスターを完成させ、発表できるようにしたい。
今回調べてみて今まで知らないことを詳しく知れて良かった。また周りの人と意見交換して調べられなかったことも知れて良かった。自分の作成したがんのポスターをもう少し分かりやすくなるように工夫していきたい。

⑤ 第5回目 題材：ポスターセッション

グループごとにブースを分け、作成したポスターを用いて調べたことを発表。他者に伝えことで、さらに理解を深めると共に、他のグループが調べた内容についても学んだ。



・全5回の授業を受けて、がんについて学んだこと・特に印象に残ったことの振り返り（抜粋）

授業を受けてがんについて学んだこと	特に印象に残ったこと
がんは誰でもなる可能性があり、身近なものだと感じた。支援などにも種類があり、精神的なものや金銭面などいろいろあると知った。	日本人の多くが予防接種をしていないことに驚いた。予防の大切さが分かった。
最初はがんになつたら死んでしまう人が多いのかと思ったけど、初期に見つけることで治療の幅が広くなっていくことが分かった。	がんは誰もがなるが、予防や受診をしっかりすることで、防ぐことができる。生活習慣の見直しをしようと思った。
最初はがんについては、あまり分からなかったが、この授業を通してがんについて知ることができ、自分たちが調べたいものを調べ、まとめたことで、がんは危ないものだが早期発見すれば治ることが分かった。	がんはいろんな療法があり、早期発見をすれば治る確率が上がったりすることが印象に残った。
これから自分の体に害が出ないように、禁煙、禁酒、適度な運動をするなど、自分にできることをしっかりする。	がんの早期発見がどれだけ大切かが分かった。
がん学習をする前は、治らない病気だと思っていたが、早期発見をすると9割の人が治ることを知った。	がんの支援に関わる人数の多さに驚いた。がんになって支えがあつたら安心すると思う。

3.生徒の様子

＜学習への意欲や発言の様子（発言内容）等＞

興味・関心のあるテーマを調べたことで主体的に情報を集め、理解を深めている様子が見られた。また、生徒は「ここまで調べたが、ここからが分からなかった」と、調べた内容と分からぬ部分を明確にしたうえで外部講師に対して積極的に質問しており、自分たちの考えを深めようとする姿勢が見られた。

＜グループ活動での様子や対話 等＞

生徒はそれぞれ選んだテーマについて、選定理由や調べた内容をどのようにポスターとして表現するか、活発に意見を出し合いながらポスター作成に取り組んでいた。どのようにすれば他の人に見てもらいやすいポスターになるか意見を交わし、情報の記載内容とデザイン性のバランスを考えながら、見る人の立場に立って積極的に作業を進める様子が見られた。

＜生徒の具体的な対話内容やワークシートの記述内容 等＞

ポスターのテーマ決めにおいて、「予防」を選んだチームでは「がんの原因が分からないと予防はできないのではないか」という発言から意見を出し合い、そこから「がんの原因と予防について」をテーマにしてはどうかといった提案が生まれていた。調べたことや学んだことをもとに意見を出し合いながら、テーマ設定から内容の構成まで主体的に進めている様子が見られた。どのグループも活発に意見交換を行い、考えをまとめながら作業を進めていた。また、ポスター作成係と情報収集係に役割分担するなど、効率よく作成を進めているチームも見られた。

4. 授業を行うまでの外部講師とのマッチングや調整の流れ

・外部講師を派遣するまでの流れ（協議会の開催、名簿や派遣窓口の活用、等）

学校より実施したいテーマを教育委員会に提出。

教育委員会にて、学校が希望するテーマにあった外部講師を講師名簿より選定、依頼を行う。

・外部講師との事前調整の方法、回数、要した時間 等

学校側と外部講師の対面での打合せ1回に加え、各授業後の振り返りを外部講師へ共有、外部講師からのフィードバックを踏まえ、授業を進行した。